



## 健康支援の一つ、がん検診率を 高める為二層の努力と工夫を

**問** 女性に関わりの深い子宮がん検診は、当市は今年より20歳に、マンモグラフィによる乳がん検診も30歳に引き下げられた。負担額にしても、近隣の市町村に比べ劣らない。しかし検診率は決して高くない。今後検診率をあげる為の啓発をどの様に考えているのか。

**健康づくり課長** 当市の基本検診率は微増しているが各種がんの検診率は横ばい状態である。筑後市の総死亡の約3割が、がんである。又女性の30歳から64歳までの死亡原因の第一位が乳がんである。知識の啓発や、日常の健康管理の為に学習の機会を増やし、がん予防の話など本年度より取り入れたい。又来年度以降、秋の検診も検討に入れながら検診の啓発を行ってきたい。

## 学校教育と家庭の 連携による「食育」環境教育を

**問** 今国会で食育基本法が成立した。子ども達を取り巻く食の環境は、社会の豊かさとは反対に悪化。問題は、健康、欠食、孤食。食育の持つ意味は深い。家庭と学校の連携は大事。特に学校給食は三食のうちの大事な一食である。食材の産地の公表、地場産給食の推進、栄養教諭の設置等で食

五十嵐多喜子  
議員

育の推進を。子ども達の環境教育についても専門的な知識を持った方の指導をお願いしたい。

**学校教育課長** 「食育」環境教育は家庭との連携が重要な課題だと認識している。現在、月1回の「ちくこの日」で地元の食材を利用。今年度、月2回への拡大を協議している。

**教育長** 食育にふさわしい栄養教諭の資格をとるため本年3人が講習を受ける。



給食を食べる子どもたち

## 正面を向かない卒・入学式 何か意味があるのか

**問** 毎年地元の中学校の卒・入学式に出席しているが生徒は正面を向かず横を向き、親と対面している。不思議というか違和感を持つ。なぜ式場の正面を向かないのか。何か意味があるのか。

**教育長** 卒・入学式は儀式的行事の最たるものであり厳粛で清新、正しい生活への展開へと動機づけねばならないとある。

筑後市では小学校で3校中学校で2校がフロア形式（親子対面）で正面（ステージ形式）を向いていない。そういう実態だ。

**市長** 凛とした空気みなぎる八女高の卒業式に出て大変感動した。正面を向き、きちんと対応していた。

## 道徳教育は形骸化 されてないか

**問** 青少年の事件が起きる度に徳育の必要性が叫ばれるが真剣に論じられたことを知らない。学校での道徳教育は言葉ばかりで形骸化

されているのではないか。

**教育長** 一言で言うなら形骸化とは言わずとも随分となおざりにされている。道徳という授業を専門的にキチンと生徒に指導できる力量のある教師が少ない。

今後、各学校の道徳主任を通じて連絡調整し、私達が学校訪問を行い実情はどうなっているのか求めている。

## 筑後市はどうする 二学期制

**問** 「ゆとり教育」から学力向上への路線転換ともとれる2学期制導入が始まっている。本市においてはどうか。議論が行われているか。

**教育長** 県内では小学校が41校、中学校17校が試行及び実施に入っている。メリット、デメリットがあり、整理している。もう少し模様をみたい。保護者、市P連ともこの話を持ち上げ、情報交換してみたい。

永田 昌己  
議員



ステージ形式の卒業式